

【集計結果】

分類	区分	数学				
		平均正答率(%)			全国比	評価
		二中	県	全国		
全体		60.0	60.0	59.8	100	B
学習指導要領の領域	数と式	64.0	63.8	63.8	100	B
	図形	74.5	71.6	72.4	103	B
	関数	37.3	40.7	40.8	91	D
	資料の活用	55.5	58.5	56.3	99	C
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	/	/	/	/	/
	数学的な見方や考え方	50.6	50.5	51.0	99	C
	数学的な技能	63.3	64.9	63.9	99	C
	数量や図形などについての知識・理解	71.6	72.4	71.3	100	B
問題形式	選択式	58.2	60.9	60.3	97	C
	短答式	68.3	67.4	66.6	103	B
	記述式	45.9	46.3	47.1	97	C

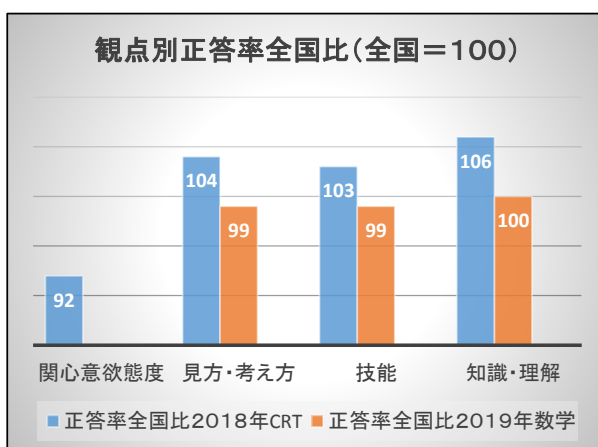
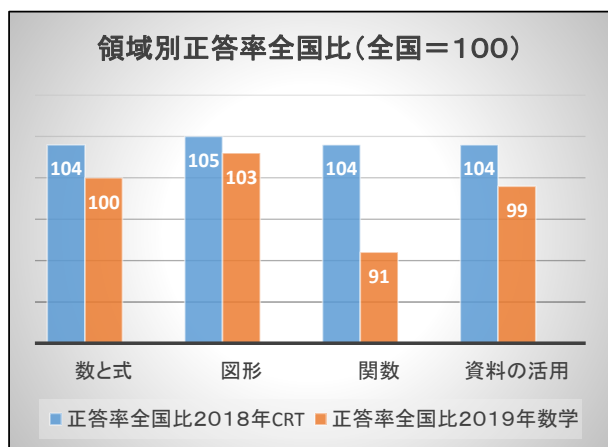
【評価について】

A：全国平均との差が+3%を超える

B：全国平均と同等から+3%まで

C：全国平均との差が-3%まで

D：全国平均との差が-3%を下回る



【分析】

領域の観点からみると、「図形」では平行移動並びに反例の意味を理解しているかをみる設問の正答率が良好な結果でした。しかし、「関数」および「資料の活用」で全国平均を下回っており、課題があるといえます。その中でも、次の問題について正答率が低い結果となっています。

- ①「反比例の表から式を求める」問題
- ②「問題解決するためにどのような代表値を用いるべきかを判断する」問題
- ③「選択式」の問題

また、「記述式の問題」の無回答率が高かったです。

【今後の取り組み】

- ①比例や反比例、一次関数などの特徴を再確認し、基礎的な知識や解法を定着させるために問題演習の時間を確保します。また、式やグラフ、表を相互の関連に気づき、具体的な事象において何を表しているのか考えたり、説明したりする機会を増やします。
- ②「図形」の基礎的な知識や解法だけでなく、知識や解法の根拠となる事柄を考えたり、説明したりする場面を作ります。
- ③「資料の活用」では基礎的な知識や解法を定着させるために、相対度数や中央値などの用語の意見を復習し、資料を適切に読みとって判断する問題に取り組むなど学び直しの機会を持ちます。また、資料を分析し、その結果を使って考察したり、説明したりする場面を作ります。